

教友

第95号

目次

未来を拓く埼玉教育
私の母校への思いと教育の現状 日吉 亨……1
新しい教育学部に向けて……戸部 秀之……2
教員養成の歩みを通して
未来を創るかけがえのない子供たちのために
松澤 勇治……3
教職支援委員会から……4

模擬個人面接を通して・模擬個人面接を受けて……5
教授合格者から後輩へのアドバイス……6
キャンパスライフ サークル紹介……8
硬式野球部・体育会男子バスケットボール部
埼玉大学合唱団・裏千家茶道文化研究部
キャンパスライフ ゼミ紹介……10
社会専修 小林聡研究室
心理・教育実践学専修 堀田香織研究室
同窓生の広場……11

卒業五X周年同窓会報告……23
令和六年度教友会事業報告……24
令和六年度定期総会報告……25
埼玉大学ホームカミングデー二〇二四……26
本年度の教友会事業より
「埼玉大学創基百五十周年記念年表」寄贈……28
卒業五X周年同窓会開催等案内……30
令和六年度教友会役員名簿・学年理事名簿……32
事務局より・編集後記……30



未来を拓く埼玉教育 —私の母校への思いと教育の現状—

埼玉県教育委員会教育長 日吉 亨

1 はじめに

教友会員の皆様こんにちは。埼玉県教育委員会教育長の日吉亨と申します。この度は埼玉大学教育学部同窓会誌「教友第九十五号」の巻頭言を執筆する機会をいただき、誠にありがとうございます。母校の埼玉大学教育学部卒業生の一員として、このような形で関わることができ、大変光栄に思います。

2 私と埼玉大学

私は昭和六十二年三月に小学校課程国語専修を卒業した後、埼玉県立高校教員として採用され、県立浦和高等学校長など県公立高校の教育現場と県教育委員会で経験を重ね現在に至ります。大学時代は、講義だけでなくサークル活動にも打ち込みました。講義では市

毛勝雄教授の実践的な講義が印象に残っており、今でも講義ノートやご著書を読み返すことがあります。埼玉大学で得た知識や経験は今日の私の基盤となっています。

3 教育の現状と動向

さて、埼玉県の教育現場の現状と最近の動向についてお話しします。令和二年から全国的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響を与えました。現場にも大きな影響を与えました。全国一斉の休校から感染予防対策など、子供たちにとっては当たり前であった日常生活が一変しました。令和五年には感染症法の五類に位置づけられました。現在は子供の体力低下など新たな教育課題も生じています。他方、大きく進んだ面もあります。コンピュータやタブレットな

どデジタル端末を活用した学習です。各学校に高速大容量のデジタル回線が敷設され、児童生徒には一人一台ずつのデジタル端末が整備されました。今は当たり前のように授業で子供の机の上に端末が置かれ、黒板の横で巨大なテレビ様のモニター画面が活用されています。子供たちが自由自在にキーボードを操作する授業が日常となりつつあります。

4 埼玉教育の未来

令和六年に埼玉県では「第四期埼玉県教育振興基本計画」を策定しました。将来の予測が困難な時代において、一人一人が豊かで幸せな人生を送るとともに、持続的に発展する社会の創り手となるためには、教育の使命は極めて重要です。計画は基本理念を「豊かな学びで 未来を拓(ひら)く埼玉教育」としました。

さらに、この理念をふまえ「誰一人取り残されない共生社会の実現に向けた教育の推進」「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進」の二点を計画全体に共通する視点として設けまし

た。一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する共生社会の実現に向けた教育を推進していくことが必要です。また今後、社会全体のデジタル化が加速していく中で、教育の分野でも、教育の質を向上させるためには、積極的に活用していくことが不可欠です。

未来の教育に向け、私たちはこのようなビジョンを持ち、次世代の育成を積極的に進めてまいります。教育学部の学生の皆様には、これから社会の様々な分野で活躍されることを願っております。母校で培った知識や経験を活かし、教育現場や社会全体に貢献していただければ幸いです。

5 むすびに

埼玉大学教育学部の教育がさらに充実するとともに、学生、同窓生の皆様のご健勝と教友会活動がますます発展することを心より祈念しております。今後とも、埼玉県教育行政へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(昭和六十二年卒)